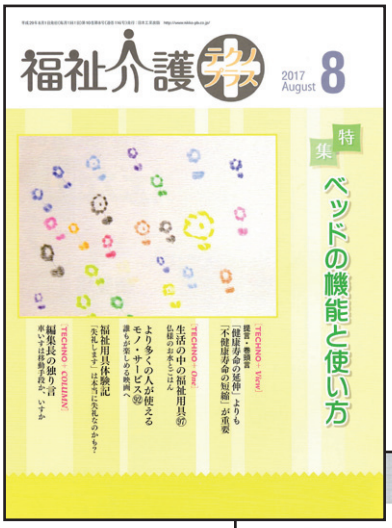


「福祉介護テクノプラス 2017年 8月号」（日本工業出版）

2017年8月発行

連載 TECHNO プラス One

F1706-12

誰もが楽しめる映画へ

より多くの人が使えるモノ・サービス

星川安之（公益財団法人　共用品推進機構） Vol.92

はじめに

映画やイベントの情報が数多く掲載されていた今は無き月刊情報誌「ぴあ」には、車椅子使用者が観賞できるスペースのある映画館に、障害のある人が「アクセス可能」を示す国際シンボルマークが表示されていました。マークについて、車椅子使用者と映画館の間にあったハードルが大きく下がったことになります。更に、「ぴあ」が、この表示を始めてから、徐々にそのマークを表示する映画館は増えていきました（図1）。

図1　国際シンボルマーク

今では、車椅子専用のスペースが後方、及び前方に設けられている映画館、車椅子使用者の入数によって、設置されている椅子を取りはずして車椅子使用者のスペースを作る映画館など、方法は異なっても貴重な工夫が広がっています。「ぴあ」が廃刊になってからは、それらの情報は、それぞれの映画館が作成するホームページに掲載され引き継がれています。

館内での誘導

障害のある人が映画館で映画を楽しむためには、ハード面での整備と共に、映画館内での誘導の仕組みがあってはじめて劇場の扉まで辿りつき、映画を見る準備ができます。

館内での誘導は通常、音声によるアナウンスで行われますが、耳の不自由な人、日本語が母語でないかたにとっては、その情報が伝わりにくかったり、伝わらないことがあります。

ある映画館では、聴覚障害者が主人公の映画上映を機に、館内での情報発信を、音声アナウンスに加え、案内内容を書いたプラカードを示すことにしています。

また、受付ではマクドナルドのように、数字や別引情報などが予め記載されたボードを利用し、指さすだけでコミュニケーションの補助を行うこともあります。また、メモ帳や筆談ボードを利用しコミュニケーションしている映画館もあると聞いています（写真1）。

写真1　筆談ボード

字幕と音声ガイド

平成7年に聴力障害者情報文化センターと共用品推進機構が、聴覚障害関連の団体と共同でおこなった「耳の不自由な人たちが感じている例えば「映画（邦画）にも字幕をつけてほしい」というような要望がでています。また、平成5年に行った「朝起きてから夜寝るまでの不便さ調査：視覚障害者アンケート調査報告書」では、「文字情報を音声化してほしい」と「画像情報の説明を音声でしてほしい」という欲望がでています。

シティ・ライツ

この要望が出た平成5年から約四半世紀経つ間に、映画の分野では貴重な試みがされてきました。平成13年に発足したバリアフリー映画鑑賞推進団体シティ・ライツは、視覚に障がいがあっても、映画を楽しむことのできる環境づくりをしている団体です。

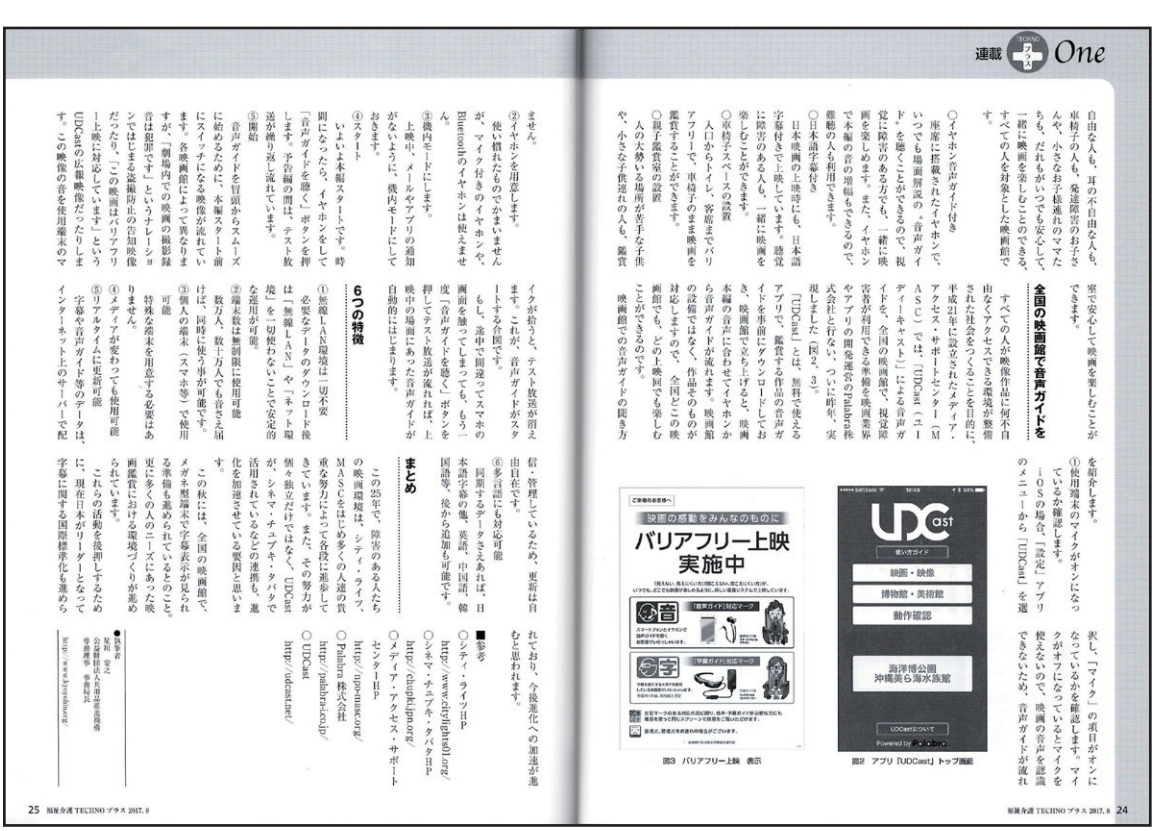
具体的には、映画の場面、人物の動き、情景、字幕など、目から入る情報を言葉で補うサポートをしています。映画の視覚的な情報を、「音声ガイド」という、セリフの合間にタイミングよく挿入しているラジオドラマのように映画をイメージしながら楽しむことができます。具体的には、映写室で実況要望がでています。また、平成5年に行った「朝起きてから夜寝るまでの不便さ調査：視覚障害者アンケート調査報告書」では、「文字情報を音声化してほしい」と「画像情報の説明を音声でしてほしい」という欲望がでています。

写真2　シネマ・チュプキ・タバタ

平成9年以降、視覚障がい者からの要望で市民映画祭などで、バリアフリーシアターが実現していきます。平成10年には、「グリーンマイル」の初回限定版にはじめて音声ガイドがつけられました。その後、劇場公開時に音声ガイドがついた作品や、市販DVDに音声ガイドがついた作品も徐々にでてきています。現在市販・レンタルされている音声ガイド付きDVD一覧は、ブログ「街角の月明かり」で参照できます。また、視覚障がい者が録音図書や点字図書データをダウンロードして自宅で楽しむことのできるサピエ図書館では、平成25年から、シネマアイジー（映画のサウンドに音声ガイドをつけてデイジー編集したもの）の貸出しを開始「ローマの休日」や「ハリーポッター」シリーズなど、誰もが知っている名作や話題作など、新旧問わず300タイトル以上の作品が楽しめるようになっています。

そして、同団体は、平成26年11月に「CINEMA Chupki TABATA（シネマ・チュプキ・タバタ）」を東京都北区田端にオープンさせました（写真2）。

「このシアターは、目の不自由な人も、耳の不自由な人も、どんな人も一緒に映画を楽しめるユニバーサルシアター。たくさんの人々の募金によって、日本一小さくて、日本一やさしい映画館です。新旧とりまぜて、選りすぐりの映画を上映しています」とホームページに紹介されています。目の不



連載 TECHNO プラス One

自由な人も、耳の不自由な人も、車椅子の人も、発達障害のお子さんや、小さなお子様連れのママたちも、だれもが心地よく、一緒に映画を楽しむことのできる、すべての人を対象とした映画館です。

○イヤホン音声ガイド付き

座席に搭載されたイヤホンで、いつでも場面解説の「音声ガイド」を聴くことができるので、視覚に障害のある方でも、一緒に映画を楽しめます。また、イヤホンで本編の音の増幅もできるので、難聴の人も利用できます。

○日本語字幕付き

日本映画の上映時にも、日本語字幕付きで上映しています。聴覚に障害のある人も、一緒に映画を楽しむことができます。

○車椅子スペースの設置

入口からトイレ、客席までバリアフリーで、車椅子のまま映画を鑑賞することができます。

○親子鑑賞室の設置

人の大勢いる場所が苦手な子供や、小さな子供連れの人も、鑑賞室で安心して映画を楽しむことができます。

全国の映画館で音声ガイドを

すべての人が映像作品に何不自由なくアクセスできる環境が整備された社会をつくることを目的に、平成21年に設立された「メディア・アクセス・サポートセンター（Media Access Support Center：MASC）では、「UDCast（ユーディーキャスト）」による音声ガイドを、全国の映画館で、視覚障害者が利用できる準備を映画業界やアプリの開発運営のPalabra株式会社と行なう、ついに昨年、実現しました（図2、3）。

「UDCast」とは、無料で使えるアプリで、鑑賞する作品の音声ガイドを事前にダウンロードしておき、映画館で立ち上げると、映画本編の音声に合わせてイヤホンから音声ガイドが流れます。映画館の設備ではなく、作品そのものが対応しますので、全国どこの映画館でも、どの上映回でも楽しむことができるので、映画館での音声ガイドの国を方を紹介します。

①使用機種のマイクがオンになっているか確認します。マイクがオフになっていると、マイクを使えないので、映画の音声を認識できないため、音声ガイドが流れ

図3　バリアフリー上映　表示

図2　アプリ「UDCast」トップ画面

ません。

②イヤホンを用意します。

使い慣れたものでかまいませんが、マイク付きのイヤホンや、Bluetoothのイヤホンは使えません。

③機内モードにします。

上映中、メールやアプリの通知がないように、機内モードにしておきます。

④スタート

いよいよ本編スタートです。時間になったら、イヤホンをして「音声ガイドを聴く」ボタンを押します。予告編の間は、「テスト放送が確認・流れています。

⑤開始

音声ガイドを頭からスムーズに始めるために、本編スタート前にスイッチになる映像が流れています。各映画館によって異なりますが、「劇場内での映画の撮影録音は犯罪です」というナレーションではまる盗撮防止の知映像だった、「この映画はバリアフリー上映に対応しています」というUDCastの広報映像だったりします。この映像の音を使用端末のマイクが拾うと、テスト放送が消えます。これが、音声ガイドがスタートする合図です。

もし、途中で間違ってスマホの画面を触ってしまっても、もう一度「音声ガイドを聴く」ボタンを押してテスト放送が流れれば、上映中の場面にあった音声ガイドが自動的にはじまります。

6つの特徴

①無線LAN環境は一切不要

必要なデータのダウンロード後は「無線LAN」や「ネット環境」を一切使わないことで安定的な運用が可能。

②端末数は劇団に使用可能

数万人、数十万人でも音ズレ届けば、同時に使う事が可能です。

③個人の端末（スマホ等）で使用可能

特殊な端末を用意する必要はありません。

④メディアが変わっても使用可能

字幕や音声ガイド等のデータは、インターネット上のサーバーで配信・管理しているため、更新は自由自在です。

⑥多言語にも対応可能

同期するデータさえあれば、日本語字幕の他、英語、中国語、韓国語等、後から追加も可能です。

まとめ

この25年で、障害のある人たちの映画環境は、シティ・ライツ、MASCをはじめ多くの人達の貴重な努力によって各段に進歩してきています。また、その努力が個々独立だけではなく、UDCastが、シネマ・チュプキ・タバタで活用されているなどの連携も、進化を加速させている要因と思います。

この秋には、全国の映画館で、メガネ型端末で字幕表示が見られる準備も進められているとのこと。更に多くの人のニーズにあった映画鑑賞における環境づくりが進められています。

これらの活動を後押しするために、現在日本がリーダーとなって字幕に関する国際標準化も進められており、今後進化への加速が進むと思われます。

■参考

○シティ・ライツHP
http://www.citylights01.org/

○シネマ・チュプキ・タバタHP
http://cinekipjpn.org/

○メディア・アクセス・サポートセンターHP
http://npomasc.org/

○Palabra 株式会社
http://palabra.co.jp/

○UDCast
http://udcast.net/

●執筆者
星川 安之
公益財団法人 共用品推進機構
専務理事　事務局長
http://www.kyoyohin.org/